

## 県民意識・実態調査の結果概要（無作為抽出した県民対象）

### 1. 調査の目的

参画と協働の意識の醸成を図るとともに、参画・協働条例の施行、具体的施策の展開を踏まえて、県民意識の変化、地域社会での地域づくり活動の実施状況の変化を把握するため、県民意識・実態調査を実施した。

### 2. 調査設計

- (1) 調査地域 兵庫県全域
- (2) 調査対象 県内に居住する満20歳以上の男女個人
- (3) 標本数 5,000
- (4) 各市町の抽出数（標本配分）の考え方  
県民局ごとに500の標本数を、住民基本台帳(平成17年3月31日現在)に記載された県民局内の各市町の人口の構成比に応じて配分した。（全10県民局）
- (5) 調査方法 郵送法（はがきによる催促1回）
- (6) 調査時期 平成17年7月15日～8月15日

政策室ビジョン担当課長が実施する「美しい兵庫指標」県民アンケートに設問を追加して実施

### 3. 回収結果

回収数 2,371（回収率47.4%）

地域別標本数・回収数

	標本数	回答数	回収率
神戸	500	204	40.8%
阪神南	500	211	42.2%
阪神北	500	217	43.4%
東播磨	500	232	46.4%
北播磨	500	256	51.2%
中播磨	500	226	45.2%
西播磨	500	257	51.4%
但馬	500	270	54.0%
丹波	500	273	54.6%
淡路	500	225	45.0%
全県	5,000	2,371	47.4%

4. 調査結果

(1) 現在、地域活動やボランティア活動（子育てや高齢者の支援、緑化活動や交流事業など地域を住みやすくするための活動）に取り組んでいますか。

	取り組んでいる		取り組んでいない		無回答		合計	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
全 県	409	17.3%	1,814	76.5%	148	6.2%	2,371	100.0%
神 戸	21	10.3%	173	84.8%	10	4.9%	204	100.0%
阪神南	32	15.2%	166	78.7%	13	6.2%	211	100.0%
阪神北	38	17.5%	169	77.9%	10	4.6%	217	100.0%
東播磨	27	11.6%	195	84.1%	10	4.3%	232	100.0%
北播磨	53	20.7%	188	73.4%	15	5.9%	256	100.0%
中播磨	39	17.3%	174	77.0%	13	5.8%	226	100.0%
西播磨	42	16.3%	200	77.8%	15	5.8%	257	100.0%
但 馬	59	21.9%	194	71.9%	17	6.3%	270	100.0%
丹 波	59	21.6%	187	68.5%	27	9.9%	273	100.0%
淡 路	39	17.3%	168	74.7%	18	8.0%	225	100.0%

(1-2) 「取り組んでいる」と答えられた方にお聞きします。  
いつから活動されていますか。

	回答数	構成比
阪神・淡路大震災のおきる前から	183	44.7%
阪神・淡路大震災がおきてから	206	50.4%
無回答	20	4.9%
合計	409	100.0%

(2) 阪神・淡路大震災後、地域活動やボランティア活動は活発になったと思いますか。

	とても活発になった		少し活発になった		変わらない		わからない		無回答		合計	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
全 県	357	15.1%	1,001	42.2%	301	12.7%	508	21.4%	204	8.6%	2,371	100.0%
神 戸	34	16.7%	95	46.6%	24	11.8%	38	18.6%	13	6.4%	204	100.0%
阪神南	27	12.8%	96	45.5%	25	11.8%	50	23.7%	13	6.2%	211	100.0%
阪神北	36	16.6%	81	37.3%	25	11.5%	56	25.8%	19	8.8%	217	100.0%
東播磨	25	10.8%	94	40.5%	33	14.2%	67	28.9%	13	5.6%	232	100.0%
北播磨	40	15.6%	114	44.5%	26	10.2%	51	19.9%	25	9.8%	256	100.0%
中播磨	34	15.0%	88	38.9%	32	14.2%	59	26.1%	13	5.8%	226	100.0%
西播磨	39	15.2%	108	42.0%	23	8.9%	56	21.8%	31	12.1%	257	100.0%
但 馬	47	17.4%	114	42.2%	37	13.7%	45	16.7%	27	10.0%	270	100.0%
丹 波	46	16.8%	117	42.9%	31	11.4%	49	17.9%	30	11.0%	273	100.0%
淡 路	29	12.9%	94	41.8%	45	20.0%	37	16.4%	20	8.9%	225	100.0%

(3) ここ2～3年で(条例ができてから)地域活動やボランティア活動への関心が高まっていると思いますか。

	とても高くなった		少し高くなった		変わらない		少し低くなった		とても低くなった		無回答		合計	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
全 県	128	5.4%	989	41.7%	1,031	43.5%	10	0.4%	4	0.2%	209	8.8%	2,371	100.0%
神 戸	9	4.4%	78	38.2%	99	48.5%	1	0.5%	0	0.0%	17	8.3%	204	100.0%
阪神南	8	3.8%	85	40.3%	99	46.9%	1	0.5%	1	0.5%	17	8.1%	211	100.0%
阪神北	12	5.5%	85	39.2%	98	45.2%	0	0.0%	0	0.0%	22	10.1%	217	100.0%
東播磨	9	3.9%	74	31.9%	127	54.7%	3	1.3%	1	0.4%	18	7.8%	232	100.0%
北播磨	14	5.5%	120	46.9%	96	37.5%	2	0.8%	0	0.0%	24	9.4%	256	100.0%
中播磨	13	5.8%	91	40.3%	105	46.5%	0	0.0%	0	0.0%	17	7.5%	226	100.0%
西播磨	17	6.6%	109	42.4%	104	40.5%	0	0.0%	0	0.0%	27	10.5%	257	100.0%
但 馬	17	6.3%	125	46.3%	102	37.8%	0	0.0%	0	0.0%	26	9.6%	270	100.0%
丹 波	16	5.9%	128	46.9%	101	37.0%	1	0.4%	0	0.0%	27	9.9%	273	100.0%
淡 路	13	5.8%	94	41.8%	100	44.4%	2	0.9%	2	0.9%	14	6.2%	225	100.0%

(4) ここ2～3年で(条例ができてから)、地域活動やボランティア活動はしやすくなりましたか。

	とてもやりやすくなった		少しやりやすくなった		変わらない		少しやりにくくなった		とてもやりにくくなった		無回答		合計	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
全 県	50	2.1%	582	24.5%	1,313	55.4%	11	0.5%	6	0.3%	409	17.3%	2,371	100.0%
神 戸	3	1.5%	43	21.1%	115	56.4%	1	0.5%	0	0.0%	42	20.6%	204	100.0%
阪神南	4	1.9%	43	20.4%	122	57.8%	1	0.5%	1	0.5%	40	19.0%	211	100.0%
阪神北	5	2.3%	44	20.3%	130	59.9%	1	0.5%	0	0.0%	37	17.1%	217	100.0%
東播磨	2	0.9%	50	21.6%	146	62.9%	1	0.4%	0	0.0%	33	14.2%	232	100.0%
北播磨	7	2.7%	70	27.3%	134	52.3%	1	0.4%	0	0.0%	44	17.2%	256	100.0%
中播磨	2	0.9%	55	24.3%	129	57.1%	1	0.4%	0	0.0%	39	17.3%	226	100.0%
西播磨	8	3.1%	59	23.0%	140	54.5%	1	0.4%	0	0.0%	49	19.1%	257	100.0%
但 馬	10	3.7%	85	31.5%	130	48.1%	1	0.4%	0	0.0%	44	16.3%	270	100.0%
丹 波	5	1.8%	70	25.6%	138	50.5%	3	1.1%	2	0.7%	55	20.1%	273	100.0%
淡 路	4	1.8%	63	28.0%	129	57.3%	0	0.0%	3	1.3%	26	11.6%	225	100.0%

(5) 地域活動やボランティア活動をしやすいするためには、どのような県の支援が必要だと思いますか。  
(2つまで回答)

	活動に必要な情報の提供		活動に必要な知識等の習得		リーダー、仲間等の確保		活動資金の確保		活動拠点の確保		その他		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
全 県	1,119	47.2%	609	25.7%	756	31.9%	752	31.7%	345	14.6%	32	1.3%	333	14.0%
神 戸	110	53.9%	56	27.5%	60	29.4%	59	28.9%	32	15.7%	3	1.5%	25	12.3%
阪神南	109	51.7%	52	24.6%	63	29.9%	62	29.4%	40	19.0%	2	0.9%	25	11.8%
阪神北	110	50.7%	49	22.6%	78	35.9%	71	32.7%	39	18.0%	6	2.8%	27	12.4%
東播磨	104	44.8%	61	26.3%	72	31.0%	80	34.5%	36	15.5%	3	1.3%	32	13.8%
北播磨	114	44.5%	71	27.7%	92	35.9%	78	30.5%	44	17.2%	0	0.0%	36	14.1%
中播磨	122	54.0%	66	29.2%	60	26.5%	58	25.7%	34	15.0%	1	0.4%	31	13.7%
西播磨	123	47.9%	70	27.2%	74	28.8%	70	27.2%	32	12.5%	2	0.8%	45	17.5%
但 馬	113	41.9%	61	22.6%	91	33.7%	98	36.3%	28	10.4%	6	2.2%	41	15.2%
丹 波	114	41.8%	74	27.1%	89	32.6%	97	35.5%	28	10.3%	5	1.8%	42	15.4%
淡 路	100	44.4%	49	21.8%	77	34.2%	79	35.1%	32	14.2%	4	1.8%	29	12.9%

《その他》 社会の理解、低年齢の時からのも徳教育、需要と供給のマッチング、きっかけづくり 等

(6) 県に意見・提案を出したことがありますか。

	ある		ない		無回答		合計	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
全 県	86	3.6%	2,216	93.5%	69	2.9%	2,371	100.0%
神 戸	13	6.4%	186	91.2%	5	2.5%	204	100.0%
阪神南	6	2.8%	198	93.8%	7	3.3%	211	100.0%
阪神北	3	1.4%	205	94.5%	9	4.1%	217	100.0%
東播磨	7	3.0%	222	95.7%	3	1.3%	232	100.0%
北播磨	2	0.8%	247	96.5%	7	2.7%	256	100.0%
中播磨	9	4.0%	213	94.2%	4	1.8%	226	100.0%
西播磨	10	3.9%	242	94.2%	5	1.9%	257	100.0%
但 馬	12	4.4%	243	90.0%	15	5.6%	270	100.0%
丹 波	10	3.7%	255	93.4%	8	2.9%	273	100.0%
淡 路	14	6.2%	205	91.1%	6	2.7%	225	100.0%

(6-2) 「ある」と答えられた方にお聞きします。  
やってみてどう思われましたか。

	回答数	構成比
満足した	10	11.6%
どちらとも言えない	41	47.7%
不満だった	35	40.7%
合計	86	100.0%

( 6 - 3 ) 「 不満だった」と答えられた方にお聞きします。

その理由は何ですか。

- ・意見を聴く姿勢は示すが、結論ありきで、方針を変更する姿勢は見られない。
- ・意見・提言をしても、何もかわらない。
- ・反応が遅すぎる。また、回答のない場合もある。
- ・匿名で提言したが、その約束を反故にされた。 等

( 7 ) 県といっしょに施策・事業に取り組んだことがありますか。

	ある		ない		無回答		合計	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
全 県	113	4.8%	2,034	85.8%	224	9.4%	2,371	100.0%
神 戸	7	3.4%	182	89.2%	15	7.4%	204	100.0%
阪神南	9	4.3%	184	87.2%	18	8.5%	211	100.0%
阪神北	6	2.8%	188	86.6%	23	10.6%	217	100.0%
東播磨	9	3.9%	207	89.2%	16	6.9%	232	100.0%
北播磨	10	3.9%	222	86.7%	24	9.4%	256	100.0%
中播磨	9	4.0%	205	90.7%	12	5.3%	226	100.0%
西播磨	18	7.0%	211	82.1%	28	10.9%	257	100.0%
但 馬	17	6.3%	223	82.6%	30	11.1%	270	100.0%
丹 波	15	5.5%	227	83.2%	31	11.4%	273	100.0%
淡 路	13	5.8%	185	82.2%	27	12.0%	225	100.0%

( 7 - 2 ) 「 ある」と答えられた方にお聞きします。

やってみてどう思われましたか。

	回答数	構成比
満足した	27	23.9%
どちらとも言えない	68	60.2%
不満だった	15	13.3%
無回答	3	2.6%
合計	113	100.0%

( 7 - 3 ) 「 不満だった」と答えられた方にお聞きします。

その理由は何ですか。

- ・協働する県民側の負担が増えるだけで、フォローする仕組みがない。
- ・地域をみずに、国をみて仕事をしている。
- ・事業に対して消極的であった。また、県民を見下したような対応であった。 等

( 9 ) ここ 2 ~ 3 年で、県政を身近に感じられるようになりましたか。

	とても身近になった		少し身近になった		身近になったとは思わない		わからない		無回答		合計	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
全 県	29	1.2%	296	12.5%	1049	44.2%	802	33.8%	195	8.2%	2,371	100.0%
神 戸	1	0.5%	24	11.8%	108	52.9%	61	29.9%	10	4.9%	204	100.0%
阪神南	2	0.9%	18	8.5%	109	51.7%	69	32.7%	13	6.2%	211	100.0%
阪神北	2	0.9%	23	10.6%	106	48.8%	63	29.0%	23	10.6%	217	100.0%
東播磨	1	0.4%	23	9.9%	97	41.8%	97	41.8%	14	6.0%	232	100.0%
北播磨	5	2.0%	28	10.9%	112	43.8%	92	35.9%	19	7.4%	256	100.0%
中播磨	1	0.4%	29	12.8%	110	48.7%	72	31.9%	14	6.2%	226	100.0%
西播磨	5	1.9%	31	12.1%	105	40.9%	97	37.7%	19	7.4%	257	100.0%
但 馬	6	2.2%	44	16.3%	98	36.3%	93	34.4%	29	10.7%	270	100.0%
丹 波	3	1.1%	50	18.3%	108	39.6%	82	30.0%	30	11.0%	273	100.0%
淡 路	3	1.3%	26	11.6%	96	42.7%	76	33.8%	24	10.7%	225	100.0%

( 1 0 ) 県政が身近になるためにはどのようなことが必要だと思われますか。( 2 つまで回答 )

	わかりやすい県政情報の発信		意見・提案する機会の充実		地域をよくする活動にも取り組む機会の充実		県政の評価・検証に参画する機会の充実		県と市町の連携		その他		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
全 県	1,166	49.2%	482	20.3%	736	31.0%	201	8.5%	888	37.5%	50	2.1%	312	13.2%
神 戸	111	54.4%	54	26.5%	66	32.4%	26	12.7%	51	25.0%	6	2.9%	21	10.3%
阪神南	113	53.6%	47	22.3%	74	35.1%	18	8.5%	81	38.4%	6	2.8%	16	7.6%
阪神北	120	55.3%	48	22.1%	46	21.2%	27	12.4%	86	39.6%	4	1.8%	28	12.9%
東播磨	140	60.3%	38	16.4%	70	30.2%	25	10.8%	78	33.6%	5	2.2%	28	12.1%
北播磨	120	46.9%	50	19.5%	78	30.5%	22	8.6%	102	39.8%	9	3.5%	35	13.7%
中播磨	116	51.3%	43	19.0%	80	35.4%	17	7.5%	83	36.7%	4	1.8%	26	11.5%
西播磨	116	45.1%	43	16.7%	70	27.2%	21	8.2%	107	41.6%	4	1.6%	40	15.6%
但 馬	120	44.4%	58	21.5%	84	31.1%	17	6.3%	99	36.7%	5	1.9%	46	17.0%
丹 波	122	44.7%	51	18.7%	85	31.1%	13	4.8%	114	41.8%	4	1.5%	45	16.5%
淡 路	88	39.1%	50	22.2%	83	36.9%	15	6.7%	87	38.7%	3	1.3%	27	12.0%

《その他》誠意のある相談体制の充実、身近な場所での説明会の開催、若い世代や高齢世代など対象を絞った広報 等

( 1 1 ) 主な県民意見 ( 自由記載欄等 )

地域づくり活動に関する意識と実態	
項 目	意 見 の 概 要
. 地域づくり活動により得られるもの	
仲間ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域づくり活動を通して、仲間との出会いに期待している。</li> <li>・ 村の会議で研修会を提案し、自治会長の口添えもあり、近所の人にパソコンを習っている。お返しに、パソコン仲間に踊りを教え、将来は老人ホーム等に出前で教えにいきたいと話している。</li> </ul>
自覚が芽生え、意識が変わる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域活動やボランティア活動に取り組む中で、自覚が芽生え、達成感が得られる。</li> <li>・ 長野で開催されたスペシャルオリンピックスに友人が休職してボランティアで参加し、大きな感動と、多くのことを学んだと聞き、私も是非ボランティアに参加したいと思った。ボランティアを通して自分の何かが変わる、変われるような気がしている。</li> </ul>
楽しみ、生きがい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域のイベントのボランティア等、楽しく参加している。</li> <li>・ 介護者家族の会で、寝たきり高齢者や認知症の介護に疲れた家族の心のケアを目的に、悩み事の相談やアドバイスをしている。</li> <li>・ 自治会でトラックを持ち、週 1 回、再生用品の回収に協力している。</li> <li>・ 近頃、子どもが犠牲となる事件が数多く目につく。次世代を担う大切な子どもたちを地域ぐるみで守っていききたい。</li> <li>・ 子どもが安全に登下校できるよう、地域みんなが協力できるようにしたい。</li> </ul>
. 活動にあたっての課題と今後のすすめ方	
住民の意識に隔差がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動していない人が、活動している人を好きでしていると見ていることが多いのが不満である。</li> <li>・ ボランティアを受けるのが当たり前のように思われている方を見かけると、とても悲しい思いがする。</li> <li>・ 地域活動・ボランティア活動とはいうが、自分の事だけに気をとられ、地域を含めた「他人の事」に無関心な人がたくさんいることを実感する。</li> <li>・ 地域が少しでもきれいになればと思い、ゴミ出しの後片付けや道路などのゴミ清掃をしている。しかし、きれいにした直後から、車からのゴミのポイ捨てや歩きながらのタバコのポイ捨てをするなど、無神経な人が多い。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティアだから責任はないといった態度の人がいるように思う。</li> <li>・ 地域活動、ボランティアに参加している人の自己満足で終わっている気がする。</li> </ul>
活動する者が一部の者に限られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加する人がいつも限られ、参加しにくい。常日頃からみんながいつでも参加できる雰囲気的大事である。</li> <li>・ 何をしても同じ人達ばかりで新鮮さがない。</li> <li>・ 役員の地域活動やボランティア活動になりがちである。</li> <li>・ どうしても同じ人に役が偏ってしまい、負担になっている。</li> </ul>
活動する者が高齢化している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域活動については住民の協力がああり、今のところ満足しているが、今後、徐々に高齢化、少子化が進むことから、不安を感じる</li> <li>・ 団体の指導者や推進役はほとんど高齢者である。</li> <li>・ 若い元気な老人が多いので、シルバーの人達のボランティア活動がもっと活発になればと思う。</li> <li>・ 老人でできるボランティアがあれば協力したい。</li> <li>・ 少子化で将来に不安が高まっている現状を改善するため、働く女性のお役に立ちたい高齢者は思いのほか多いと思う。支援の仕組み・体制が整えば、喜んでボランティアを申し出るのではないか。</li> <li>・ 高齢者が、地域の歴史や伝統を小・中学生の子供達に教えるような活動があればよい。</li> <li>・ 地域活動に「老人会」という名称の会があるが、耳にするのはあまり感じがよくない。呼び方を少し変えてはどうか。</li> </ul>
若者の参加を促すことが必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地震や災害等の時は若者が多く参加するが、地域で毎日コツコツと活動するボランティアは、する人も受ける人も高齢になってきている。若者を養成し、活動に参加してもらうことが必要である。</li> <li>・ 過疎地においては高齢化が進み、地域活動を呼びかけても若者はなかなか集まらない。</li> <li>・ 若い人たちに対し、もっと活動をアピールすべきである。</li> </ul>
親の理解と協力が必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育て支援をする中で、まず、親を育て、教育することが必要と思うことが多い。</li> <li>・ 地域活動・ボランティアには大変興味があり、子供達が小学生になったらソフトボールチームを作りたいと思っている。外で遊ぶ楽しさを子供達に教え、健全な生活が送れるように、親達も協力すべきだと思う。</li> </ul>

<p>活動拠点が離れている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現役を退きボランティア活動ができるようになったが、活動拠点が遠く、仲間も離れている。</li> <li>・ 交通が不便なため、ボランティアをしたいと思っても車でしか通えない。</li> <li>・ 足の確保が必要である。何も交通手段のないところから歩いていくのは、到着した時点で疲れてしまう。</li> <li>・ 交通の便が悪く、交通費も高額のため断念することが多い。</li> </ul>
<p>様々な主体との連携・協力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域住民・学校・行政と一緒にあって、前向きに参加を心がけて取り組む必要がある。</li> <li>・ 老いも若きも性別も関係なく、みんな一緒に考え行動することができたらいいなと思う。</li> <li>・ ボランティアは個人活動ではとても無理なので、チームワークが大切だと考える。</li> <li>・ ボランティア活動で、やりがいを持って活動していくためには、リーダーを固定せず、横並びの人間関係でお互いの価値を認める組織であることが大切だと思う。</li> <li>・ ボランティアにもグループがあり、新しく参加したくてもその輪の中に入れない、とけ込めないと感じたことがある。</li> </ul>
<p>地域によって活動に格差がある</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域によって活動が活発な所とそうでない所がある。住民の意識の違いだけが原因ではないと思う。</li> <li>・ 地域づくり活動は、都会ではできると思うが、田舎ではなかなか難しいところがある。</li> <li>・ 地域の役員を5年程していたが、町内でも活動の状況が大きく違う。</li> </ul>
<p>ボランティアに依存しすぎてはいけない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティアに頼るのでなく、県の責任で福祉サービスを充実させてほしい。安上がりの福祉にボランティアを利用しているように思う。</li> <li>・ 行政が安易に地域活動やボランティアに頼ってしまうのはよくない。</li> <li>・ 行政の下請け的に事業が増えているような気がする。</li> <li>・ 何でも県民ボランティアに任せず、まず県の職員自らが先頭に立ってボランティアで活動すべきである。</li> <li>・ 震災後、ボランティアに依存しすぎているのではないか。</li> </ul>
<p>活動者の自主性を尊重する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無理をすることなく、できる人ができる時にできることをするという気持ちが大切だと思う。</li> <li>・ 「やってもいい」という気持ちが、強制にならないような活動ができればいい。</li> <li>・ 病院ボランティアで、目の不自由な方の対面朗読をしたことがあるが、大変きびしい作業で体調を崩した経験がある。強制にならないボランティア活動が必要だと思う。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校や会社単位での強制参加等はあまり意味を感じない。</li> <li>・ 地域活動やボランティアも、村単位である場合、半強制になる場合があり、家族に若い者がいないところは大変だと思う。</li> <li>・ 押しつけのボランティアは続かない。住民が活動の趣旨を十分に理解し、自ら進んで行動するようにする必要である。</li> </ul>
自ら進んで活動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あたえられる活動から脱却して、自らの工夫と信念をもって、住民個人が地域の発展に参画していくことが大切。待っていても駄目であり、自らが発信元になってやっていくことが大事である。</li> </ul>
身近なことから取り組む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人材センターからのボランティアで、初めて水わかれ草の草取りをし、大勢の方とふれあい楽しい半日を過ごした。この位のことだったらボランティアをしてもよいと思った。</li> <li>・ 自分のできることを自主的に、少しの事でも長く続けたい。</li> <li>・ 自分のことのみを考えずに、いろんな工夫をすればもっと多くの人が活動でき、活動によってわかること、得るものの多さを実感できると思う。</li> <li>・ できることから始めようと思い、数年前から公園のゴミ収集をしている</li> <li>・ ゴミ捨て・あいさつ・草花の水やり・暇な時の草むしりなど、一人一人が少しの時間にちょっとした事をすれば、気持ちよくなれると思う。</li> </ul>
こんな地域づくり活動があるといい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小さな子供と参加できるイベントや行事など、もっと子育てに関する地域活動が増えてほしい。</li> <li>・ 子育て支援に関する場が近くなる、夫婦のみで生活しているため、少し子どもをみてほしいと思ってもみてもらえない。子どもが大きくなり、そういう活動があれば私も協力したい。</li> <li>・ 中高年のボランティアだけでなく、大学生のボランティアで子どもと遊んでもらえるようなものがあればいい。</li> <li>・ 地域の子どもたちが気軽に参加できるスポーツクラブがあればいいと思う。テニスやバスケットなど比較的少人数でできるスポーツならば、少子化の中でも問題なくしていけるのではないかな。</li> <li>・ 不便なところで、病院・買い物等車で往復してくれるボランティアがあればいいと思う。</li> </ul>
できれば活動してみたい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現役世代は、思いはあっても時間の制約がある。退職後は少しでも社会の役に立ちたいと考えている。</li> <li>・ 今は自分の仕事が忙しいが、将来は何か役立つことをして地域に恩返しをしたい。</li> <li>・ 地域づくり活動に取り組むには、勤めている会社の理解が必要である。</li> <li>・ 子育てでなかなか地域活動に参加できずにいるが、いつかしたいという思いはある。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動に参加したいと思うが、今は子供が小さくて参加する時間や機会がなかなかない。子供がいても参加できる場があればいいと思う。</li> <li>・ 最近は共働き家庭が多くなっており、そうした人たちが参加しやすい活動が必要である。</li> <li>・ 地域活動やボランティア活動は大切なことだと思うが、高齢者や病人があるような家庭などには参加することに負担を感じる。自治会の役員でも無理をおして引き受けざるをえない状況もある。</li> <li>・ 地域活動やボランティア活動に参加したいという気持ちはあるが、なかなかきっかけがない。</li> <li>・ 地域活動をしたと思う人は多いと思うが、どうかかわってほしいのかがわからない人が多いと思う。</li> <li>・ 阪神大震災でボランティア活動をし、また、ボランティア活動をしたと思っているが、どのように参加の意向を伝えればいいのか分からない。</li> </ul>
<p>・ 県に求める必要な支援</p>	
<p>活動に必要な情報の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動を始めたいと思っても、自分で色々探さないといけない。もっと普段から積極的に情報を発信してほしい。</li> <li>・ 地域活動やボランティアに参加する意志は強いが、情報を得る機会があまりにも少ない。</li> <li>・ 豊岡災害の時、協力したかったが、どのように手続きをしていいかわからなかった。</li> <li>・ ボランティア活動があってもほとんど知らないことが多い。駅前など目の付きやすい場所にポスターを貼る等してほしい。</li> <li>・ 参加してみたいと思っても、いつ、どこで、どんな内容の活動があるのか、情報を知る機会が少ないため、スケジュールや参加方法のチラシを配布してほしい。</li> <li>・ 地域活動やボランティア活動が活発に行われている他府県の実況、兵庫県市町村の現況などについて、定期的にPRしてほしい。</li> <li>・ ケーブルTVのローカル局のような放送番組を活用してみてもどうか。また、イメージキャラクターを用意する等の工夫も必要である。</li> </ul>
<p>活動に必要な知識等の習得</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域活動の取り組みの成果や今後の活動内容をわかりやすく教えてほしい。</li> <li>・ ボランティアについては、あまりよく知られていないように思うので、もっと学習する場があれば良いと思う。</li> <li>・ 地域を大切に思う心、ボランティア精神など、自分だけでなく家族・地域・社会を大切に思う心を幼児期より育てる環境をつくってほしい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校で取り組むボランティアなどはやはりいい機会だと思う</li> <li>・ 公立の中学校・高校から周囲の地域の人々に積極的に呼びかけていき、生徒と一緒にボランティア活動・地域活動ができれば良いと思う。公立の学校から発信した活動ならば、安心して参加できると思うし、子供と地域住民との結びつきも強くなると思う。</li> </ul>
きっかけづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気軽に参加できるボランティア活動の場を増やしてほしい。</li> <li>・ 高校生の頃はボランティアに参加していたが、卒業後はボランティアをする機会も余裕もなくなってしまった。女性一人でも気軽に安心して参加できる場があればいいと思う。</li> <li>・ 当日でも参加できるような場が近くにあればいいと思う。</li> <li>・ 活動に参加したい気持ちはあるが、手続きをどうすればいいかなど、活動の最初の一步がわからない。</li> <li>・ 自分で調べて他町のボランティアに参加するという現状である。もっと身近に活動の場があればいいと思う。</li> <li>・ 地域づくり活動に参加したいという気持ちはあるが、自分の周囲にそういう人がいないため、自ら飛び込んでいく勇気がない。何かきっかけがあればと思う。</li> <li>・ 自主的に活動してみたいが、身近に価値観の同じ仲間がないのが残念である。</li> </ul>
リーダー、仲間の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動をしていくためには、中心となるリーダーと団体の事務をしてくれる人が必要である。</li> <li>・ ボランティア活動が進みにくいのは、リーダーが少ないことが原因だと思う。団体の会長や役員になるのは大変であり、どうしても二の足を踏む。</li> <li>・ 災害時など、有事の際に元専門職（消防、土木技術者、警察官など）の方々に力を発揮してもらえるように、普段から準備しておくべきである。</li> <li>・ リーダーの養成と、一人一人の自覚の促しが必要である。</li> <li>・ リーダーは必ず必要だが、組織的な上下関係があると参加が進まない。</li> <li>・ 障害者スポーツ指導員の免許を持っており、これを活かした活動がしたかったが、需要がほとんどなく断念した。このような資格を活かしきれていない人も多くいると思う。</li> </ul>
活動拠点の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域活動をするための拠点を確保することが必要である。</li> <li>・ 気軽に集まることができる集会所の整備が必要である。人が集まれば活動に発展していく。</li> </ul>
活動資金の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ふれあいの町づくり協議会の委員をしているが、活潑な活動のため、いつも資金が不足する。</li> <li>・ もっと地域づくり活動に取り組む人が増えるように、予算の増額を前向きに検討してほしい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 財政難のためか資金援助が削られているとあちこちで聞くが、資金がなくてはどんな活動もできない。ボランティアを盛り上げるためには、相応の助成が必要である。</li> <li>・ 人件費はなくてもよいが、ガソリン代、弁当代等は負担し、地域のために「やる気」を育ててほしい。</li> <li>・ お金の持ち出しにならないように、少なくとも弁当代、お茶代ぐらいは支給されても良いと思う。</li> </ul>
世代間の交流、他地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じ年代の人たちばかりでグループを組むのではなく、幅広い年代の人たちと接する機会が増えてほしい。</li> <li>・ 農村地域では、昔ながらの「ムラ意識」が強く、他地域との関わりを嫌う人が多い。その壁を取り払うのはなかなか難しい。</li> <li>・ 同じような活動を各々、別の担当がやっていることがある。横のつながりをもって共同でできるようにすればもっと充実した活動ができるように思う。</li> <li>・ もっと他市町の団体との交流があっても良いと思う。</li> <li>・ 新しく引っ越してきた人たちとの交流の場がない。</li> <li>・ 他県から来て、社宅に住んでいるが、回覧板も回ってこない。地域の事にかかわりたいが、地域ぐるみの掃除の日などの日程もわからず、交流が出来ないのが不満である。</li> </ul>
自主性を尊重した支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県は不要な介入をせず、住民の自主性に任せて欲しい。</li> <li>・ 交通推進委員をやっているが、警察主導で主体性が発揮できないので悩んでいる。</li> </ul>
既存の団体の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町内会などの既存の団体を見直し、活性化させることが大切である。</li> </ul>

## 県行政への参画・協働に関する意識と実態

### ・参画に関する意識

意見をいう方法が分からない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提案の仕方がわからない。</li> <li>・ 不満があってもどこに言えばいいのかわからない。駅などにボックスを置いてもらって、投書できるようにしてほしい。</li> </ul>
意見に対しきちんと対応してほしい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最初に結論ありきで、意見を聞いただけという実績作りに終わっている。</li> <li>・ 意見に対しての反応、返事がなかった。</li> <li>・ 住民の意見をきいているふりをして、実は行政主導に変わりはないように感じる。</li> <li>・ 最初から駄目と否定するのではなく、もっと要望等に柔軟に対応してほしい。</li> <li>・ 道路のガードレールの設置を県民局へ申し出たが、気持ちよく受け入れて解決することができ、感謝している。</li> </ul>

### ・県行政が身近になるための取組み

職員の意識改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県職員の意識の改革が必要である。住民の本音を県はもっと理解してほしい。</li> <li>・ 県職員自らがボランティアの先頭に立って、地域を先導する意識がほしい。</li> </ul>
職員の親切・丁寧な対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員の対応について、一部の人のみかもしれないが、見下したような感じであまり感心しない。</li> <li>・ 職員がきびきびと積極的に行動してとてもさわやかであった。</li> </ul>
身近な情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ もっと県政が身近になるよう県の活動を詳しく説明してほしい。</li> <li>・ HPに掲載するだけだと、見る人は限られるので、情報提供の方法を工夫する必要がある。</li> <li>・ 年に数回、県政に関する説明会・報告会を身近なところで行ってほしい。</li> <li>・ 若年者や・高齢者など、各世代に応じた情報を提供することが必要である。</li> <li>・ 良いことだけでなく、県民の不利益になる、または、その可能性のあることも県が自ら公表し、十分説明するべきである。</li> </ul>
市町との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市のボランティア情報はよく目にするが、県と市がどのように連携しているのかよく分からない。連携を深め、有機的に事業を行ってほしい。</li> <li>・ 住民と市町と県の連携を進めることが大切である。</li> <li>・ 県政と市政が同一に思え、戸惑うことがある。</li> </ul>

## 県民意識・実態調査の結果概要（活動している県民対象）

### 1. 調査の目的

参画と協働の意識の醸成を図るとともに、参画・協働条例の施行、具体的施策の展開を踏まえて、県民意識の変化、地域社会での地域づくり活動の実施状況の変化を把握するため、県民意識・実態調査を実施した。

また、本調査は、地域づくり活動に取り組んでいる県民を対象とし、一般県民との意識の違いや、活動状況等を把握することを目的とした。

### 2. 調査設計

- (1) 調査地域 兵庫県全域
- (2) 調査対象 地域団体やボランティア・グループ、NPO等で活動している県民
- (3) 標本数 3,000
- (4) 標本配分 地域団体の代表者等(600)  
コホネット登録団体の代表者(2,400)
- (5) 調査方法 郵送法
- (6) 調査時期 平成17年8月15日～9月7日
- (7) 回収数 1,434（回収率47.8%）

### 3. 調査結果

#### (1) いつから活動されていますか。

	回答数	構成比
阪神・淡路大震災のおきる前から	720	50.2%
阪神・淡路大震災がおきてから	654	45.6%
無回答	60	4.2%
合計	1,434	100.0%

#### (2) 阪神・淡路大震災後、地域づくり活動は活発になったと思いますか。

	回答数	構成比
とても活発になった	434	30.3%
少し活発になった	729	50.8%
変わらない	159	11.1%
わからない	80	5.6%
無回答	32	2.2%
合計	1,434	100.0%

#### (3) ここ2～3年で（条例ができてから）地域づくり活動への関心が高まっていると思いますか。

	回答数	構成比
とても高くなった	176	12.3%
少し高くなった	802	55.9%
変わらない	413	28.8%
少し低くなった	5	0.3%
とても低くなった	1	0.1%
無回答	37	2.6%
合計	1,434	100.0%

(4) ここ2～3年で(条例ができてから)、地域づくり活動はしやすくなりましたか。

	回答数	構成比
とてもやりやすくなった	120	8.4%
少しやりやすくなった	641	44.7%
変わらない	587	40.9%
少しやりにくくなった	35	2.5%
とてもやりにくくなった	9	0.6%
無回答	42	2.9%
合計	1,434	100.0%

(5) これからも地域づくり活動を続けていこうと思いますか。

	回答数	構成比
ぜひ続けたい	1,197	83.5%
やめたい	26	1.8%
わからない	178	12.4%
無回答	33	2.3%
合計	1,434	100.0%

(6) 地域づくり活動を支援する、県のさまざまな事業を活用したことがありますか。

	回答数	構成比
ある	890	62.1%
ない	508	35.4%
無回答	37	2.5%
合計	1,434	100.0%

(6-2) 「ある」と答えられた方にお聞きします。

どのような支援を活用しましたか。

(あてはまる項目すべて)

	回答数	構成比
活動に必要な情報の提供	433	48.6%
活動に必要な知識等を習得する機会の提供	276	31.0%
アドバイザー、活動している人の紹介	136	15.3%
活動資金の提供	580	65.2%
活動拠点の提供	136	15.3%
その他	34	3.8%
無回答	4	0.4%

《その他》ひょうごボランティアプラザの各種支援(表彰制度、書類作成のアドバイス、印刷機活用等)走る県民教室 等

( 6 - 3 ) 活用された支援の情報はどこから得ましたか。 (あてはまる項目すべて)

	回答数	構成比
新聞	115	12.9%
チラシ	194	21.8%
口コミ	155	17.4%
ホームページ	102	11.5%
ホールや会議室などの掲示	99	11.1%
メールマガジン	43	4.8%
加入する組織等からの情報提供	592	66.5%
その他	95	10.7%
無回答	12	1.3%

《その他》 市役所、社会福祉協議会、県発行の情報誌、生涯学習講座 等

( 7 ) 地域づくり活動をしやすいするためには、どのような県の支援が必要だと思われますか。  
( 2 つまで回答 )

	回答数	構成比
活動に必要な情報の提供	693	48.3%
活動に必要な知識等の習得	319	22.2%
リーダー、仲間の確保	380	26.5%
活動資金の確保	925	64.5%
活動拠点の確保	266	18.5%
その他	25	1.7%
無回答	69	4.8%

《その他》 ネットワークづくり、コーディネーターの設置、市町との連携 等

( 8 ) 県の支援施策をより使いやすいものにするためには、どのような改善が必要ですか。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援情報の分かりやすい提供 (市町との連携、関係団体との連携、ボランティアを活用した口コミ作成、余裕をもった広報、担当者の明記)</li> <li>・ 総合窓口の設置</li> <li>・ 市町と調整した支援施策の再整理</li> <li>・ 地域特性に応じた柔軟な支援方法</li> <li>・ 継続的な助成金、助成金の前払い、迅速な事業決定</li> <li>・ 支援要件の緩和と、完成度の高い実績報告プレゼンテーションの義務づけ</li> <li>・ 申請書類等の簡素化 等</li> </ul>
--

( 9 ) 他の団体 ( 地域団体、ボランティア団体・NPO など ) と連携して活動をしたことがありますか。

	回答数	構成比
ある	877	61.2%
ない	448	31.2%
無回答	109	7.6%
合計	1,434	100.0%

( 1 0 ) どのような県の支援があれば団体同士が連携しやすいと思いますか。( 2 つまで回答 )

	回答数	構成比
団体の活動内容などについての情報の提供	5 1 0	3 5 . 6 %
団体同士を引き合わせるコーディネーターの配置	3 5 2	2 4 . 5 %
ともに活動するための場所	3 0 2	2 1 . 1 %
他の団体と交流する機会の提供	5 8 8	4 1 . 0 %
経費の助成	5 1 2	3 5 . 7 %
その他	2 5	1 . 7 %
無回答	1 4 6	1 0 . 2 %

《その他》地域の公民館等で連絡・調整機能の充実、魅力あるテーマ設定、県民局を越えた連携機会の拡充 等

( 1 1 ) コラボネットにどのような機能があれば、もっと活用しようと思いますか。

(あてはまる項目すべて)

	回答数	構成比
発信する情報内容の充実	3 1 7	2 9 . 5 %
コラボネットの画面を見やすくすること	9 3	8 . 7 %
登録団体がコラボネットを活用して発信できる情報の充実	2 2 3	2 0 . 7 %
登録団体間や企業、行政等との交流、連携機会の提供	4 2 6	3 9 . 6 %
コラボネットを活用した活動事例の紹介	3 8 4	3 5 . 7 %
その他	6 1	5 . 7 %
無回答	2 1 7	2 0 . 2 %

《その他》 情報入力方法、情報の分析とアドバイス、管理者の積極性、の簡素化等

( 1 2 ) 県に意見・提案を出したことがありますか。

	回答数	構成比
ある	2 8 3	1 9 . 7 %
ない	1 , 0 6 2	7 4 . 1 %
無回答	8 9	6 . 2 %
合計	1 , 4 3 4	1 0 0 . 0 %

( 1 2 - 2 ) 「 ある 」 と答えられた方にお聞きします。

やってみてどう思われましたか。

	回答数	構成比
満足した	5 5	1 9 . 4 %
どちらともいえない	1 4 3	5 0 . 6 %
不満だった	7 4	2 6 . 1 %
無回答	1 1	3 . 9 %
合計	2 8 3	1 0 0 . 0 %

(12-3) 「 不満だった」と答えられた方にお聞きします。

その理由は何ですか。

- ・意見を聴く姿勢は示すが、結論ありきで、方針を変更する姿勢は見られない。
- ・意見・提言をしても、何もかわらない。
- ・反応が遅すぎる。また、回答のない場合もある。 等

(13) 県といっしょに施策・事業に取り組んだことがありますか。

	回答数	構成比
ある	430	30.0%
ない	770	53.7%
無回答	234	16.3%
合計	1,434	100.0%

(13-2) 「 ある」と答えられた方にお聞きします。

やってみてどう思われましたか。

	回答数	構成比
満足した	157	36.5%
どちらともいえない	217	50.5%
不満だった	53	12.3%
無回答	3	0.7%
合計	430	100.0%

(14-3) 「 不満だった」と答えられた方にお聞きします。

その理由は何ですか。

- ・途中で担当者が変わって、熱意を感じなくなった。
- ・イベントを実施したが、人集めが不十分でしらけた。
- ・県の事業に協働したために、これまでの市町の事業の足を引っ張る結果になった。
- ・協働した結果の事業報告がなかった。・

(15) ここ2～3年で、県政を身近に感じられるようになりましたか。

	回答数	構成比
とても身近になった	126	8.8%
少し身近になった	589	41.1%
身近になったとは思わない	405	28.2%
わからない	198	13.8%
無回答	116	8.1%
合計	1,434	100.0%

( 1 6 ) 県政が身近になるためにはどのようなことが必要だと思われますか。( 2 つまで回答 )

	回答数	構成比
わかりやすい県政情報の発信	5 0 1	3 4 . 9 %
意見・提案する機会の充実	3 3 6	2 3 . 4 %
地域をよくする活動にともに取り組み機会の充実	6 7 7	4 7 . 2 %
県政の評価・検証に参画する機会の充実	1 5 7	1 0 . 9 %
市町と県の連携	6 2 6	4 3 . 7 %
その他	2 8	2 . 0 %
無回答	1 4 7	1 0 . 3 %

《その他》分かりやすい広報誌の作成、地域団体とのさらなる連携、地域にとけ込む県職員の養成、県職員の意識改革、計画段階からの参画と協働の実施 等

( 1 7 ) 今後、県政に関わっていこうと思いますか。

	回答数	構成比
関わっていきたい	7 3 8	5 1 . 4 %
関わっていこうとは思わない	8 7	6 . 1 %
わからない	4 8 0	3 3 . 5 %
無回答	1 2 9	9 . 0 %
合計	1 , 4 3 4	1 0 0 . 0 %

( 1 8 ) 県職員にどのようなことを望みますか。

- ・ 県民に意見にもっと耳を傾けてほしい。
- ・ 県職員としてもっと地域にとけ込み、地域づくり活動の現場に身を投じてほしい。県民と顔の見える関係を築いてほしい。担当者の異動が早すぎる。
- ・ もっと柔軟な対応が必要である。
- ・ 市町職員よりも謙虚な態度の職員も増え、親切で暖かい雰囲気を感じるが、モラル、スキルの低い職員も多く、サービス業としてさらなる意識改革を望む。 等

( 1 9 ) 主な県民意見 ( 自由記載欄等 )

地域づくり活動に関する意識と実態	
項 目	意 見 の 概 要
. 地域づくり活動により得られるもの	
仲間ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域づくり活動は、入りこめば入りこむほど、難しくなるが、その代わりに確実に応援者が増え、つながりができてくる。</li> <li>・ 地域で防犯活動を行っており、これから参加してくれる人を探して、グループの一員になってもらうよう努力している。</li> <li>・ スポーツチャンバラを通じて、地域の親子と楽しく交流し、繋がりを広めている。地域づくり活動は人の輪づくりが基本であり、今後もお互いがボランティア活動の輪を大事にしてライフワークとしてエンジョイしていきたい。</li> </ul>
楽しみ、生きがい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内の視覚障害の方々とパソコン通信のグループを立ち上げ、毎日メール交換を通じ、交流を図っている。これまではボランティアを受ける立場であったが、パソコン通信は、自分から自由に表現できるので、こんな嬉しいことはないと言われている。</li> <li>・ 月一回、ふれあいミニ喫茶を営業し、地域の方に喜んでもらい、自分たちも楽しみながらしている。今後も長く続けたい。</li> </ul>
地域の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校区のコミュニティ活動を基盤に、地域住民の交流と都市との交流を目指し、校区をあげて祭りを行っている。毎年続けることにより、地域に定着した催しとなり、都市との交流もできるようになり、地域の活性化が図られたように思う。</li> <li>・ 少子高齢化が進む中、微力ではあるが地域の高齢者との交流を持つことで、いきいき暮らせる住みよい町づくりに日々頑張っている。</li> <li>・ 県立神戸生活創造センターの講座の修了生が集まって、消費者問題、環境問題等について各自が課題を持ち寄り、互いに研鑽を高めながら、その研究結果を地域に行かすような活動を続けている。</li> </ul>
. 震災前後の意識の変化	
意識が高まり、活動が活発になった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 震災後、行政に頼らず住民自ら地域づくりをしようという気運が高まっているように感じる。</li> <li>・ 震災後、ボランティア活動は活発になり、参加・協力する人は増えたが、熱しやすく冷めやすい人も多い。活動をよりよく継続させることは難しいことだと思う。</li> </ul>
意識が薄れつつある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 震災の時、「命あるだけで幸せ」と近隣の方と協力し、親近感を持って過ごしたことも、年月と共に思い出となりつつあるように思う。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>震災後、地域コミュニティの重要性を認識しながら、人と人の交流が少なくなったように思う。経済情勢が悪いのも一因と考えるが、会社・家族中心の考え方があるのではないか。</li> </ul>
<p>・ 活動にあたっての課題と今後のすすめ方</p>	
住民意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動についてはまだ地域の理解ができていない。暇があるからしていると言われることが多く、大変残念である。</li> <li>県民が市民活動に関心を示し、地域が変わりつつあるが、無関心な人も多く二極化している。</li> <li>団体による町づくりが進められる中、住民個人レベルでは、まだまだ盛り上がり少なく、両者の間に温度差が感じられることがよくある。各団体が、その事を認識し、住民一人一人に丁寧に説明を行っていくことが必要である。</li> <li>ボランティア活動は以前より活発になっているが、ボランティアという美学を盾にして、活動に参加する人たちのモラルが低下しているように思う。</li> <li>地域づくり活動に関する知識がまだまだ十分ではないので、行政に通じた方の話や地域住民の問題意識を勉強できる機会があればと思っている。</li> <li>本人が活動をしようという気になることが大切である。仕事・家事・養育で忙しいとは思いますが、自分の生き方を見つめ、してみようという気になれば積極的に取り組めると思う。</li> </ul>
情報提供が不十分	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの人に参加したいと思う活動内容について、もっと知りたい。</li> <li>自治会長を長年勤めているが、活動資金の援助など、地域づくり活動を支援するための県事業の情報が伝わってこないため、よく知らない。</li> </ul>
活動する者が一部に限られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部の人たちだけが元気に走り回り、周りの人は無反応なことが多いように思う。一部の人だけの地域づくりではなく、多くの住民が主役の地域づくりが必要である。</li> <li>役員だけの活動になり、なかなか全員が動いてくれない。</li> <li>少子高齢化そのものの地域に住んでいる。何をしても人の集まりが悪く、活動しているのは同じ顔ぶればかりである。</li> <li>毎年事業が増加傾向にあるが、一番困るのは人材の確保である。同じ人が色んな団体に籍を置いている。広く浅く大勢の県民の参加が必要だと思う。</li> </ul>
活動する者が高齢化している	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者や一人暮らしの方の友愛訪問をしているが、会員の高齢化が進み、若年層の入会がなかなか見込めないのが悩みの種である。</li> <li>リーダーが高齢化し、後を継ぐ者が不足しているのが大きな課題である。</li> <li>ボランティアに参加してくれる方の高齢化が進み、若い方の参加が</li> </ul>

	<p>進まない。これからのボランティア活動は行き詰まるのではないかと心配している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者が、自分たちの住んでいる地域で長年培ってきた貴重な知識や技術、ノウハウを提供し、自己実現と貴重な社会的資本の有効活用につなげていく。そうしたグループの立ち上げを、軌道に乗るまで行政が支援することが必要である。</li> <li>・ 地域の環境がよいので、まず近所で活動したい。老人でも活動できることは一杯あるので、まだまだ出来ることは進んで参加したいと思っている。</li> </ul>
若者の参加を促すことが必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どのボランティアグループも同じだと思うが、若年層が少なく、後継者を育てるのが難しい。若い人も参加できるように考えていく必要がある。</li> <li>・ 若い方、特に子育て中の若い主婦をいかにサポートし、参加を促すかが世代交代の大きなポイントになると思う。交通費、保育のサポートで、お互いが集まりやすくなれば、サークルができ、輪が広がるのではないかな。</li> <li>・ 小・中学生とともに考え行動することが、次世代を担う人材育成につながると思うので、できるだけ声をかけていきたい。</li> <li>・ 地域の環境をよりよくしていくための地域づくり活動について、幼少期から計画的に教育していくことが不可欠である。</li> <li>・ 中学・高校生が少しの間でも必ずボランティアに参加する機会を設け、将来すすんで参加するような基盤をつくる必要がある。</li> </ul>
女性の積極的な参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少子高齢化社会となる中で、女性の役割はとても大きいと思う。</li> <li>・ 仕事をしている女性が増え、忙しいとの理由から団体活動を断られるが、やはり地域を守っていく上で、女性同士の連携は必要だと思う。</li> <li>・ 女性の参画が年々減少しているが、活動の輪を広げることで女性の参加を増やしていきたい。</li> </ul>
親の理解と協力が必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子ども会の活動において、親の意識・関わり方に悩んでいる。子ども達は、集まって何かするというだけでとても喜び、たくさん集まる。しかし、活動を補助する親がなかなか集まらない。親子で楽しめる行事を企画するなど、親にサポートする気持ちになってもらう工夫が必要である。</li> <li>・ 小学校の校区での行事・祭りでは子ども達が楽しそうなのに比べ、母様は渋々参加しているようだった。世代を超えた付き合いの中での子育ての大切さを、もっとわかってほしいと思う。</li> </ul>
リーダー、キーパーソンの育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域づくり活動においては、情報や人を上手につなぐキーパーソンが不可欠だと思う。</li> <li>・ 色々と活動に参加する人は多いが、役が回ってくると尻込みをする人がいて難しい。</li> </ul>

<p>活動資金が不足している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何をするにしても、はじめは立ち上げの勢いでできるが、2～3年すると資金面で困ってしまう。</li> <li>・ 始めから終わりまで全てボランティアですというのは無理であり、ある程度の基盤をつくるための資金援助は必要である。</li> <li>・ 助成金等の資金援助はとてもありがたいが、助成が打ち切られた後の活動は非常に不安が大きい。</li> <li>・ 活動助成金を要望しても、助成金額が少なく、事業規模を縮小して実施するしかない。前払金制度もあるが、半額の前払いであり、立替えが負担である。せめて8割くらい前払いしてほしい。</li> </ul>
<p>世代間の交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一番中心となるべき年代層が人との交流をあまり好まない。世代間の交流をどのように進めるかが今後の課題である。支え合うことの大切さを伝える機会を、再三設けることが必要だと思う。</li> <li>・ 子どもの時から地域づくり・活動への参画の大切さを学ばせることが大切だと思う。若い人と高齢者、また子どもたちと婦人等、世代を超えた交流が大切なのではないか。</li> </ul>
<p>地元組織と新興組織の連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自治会、PTA等の地元組織とNPO等が連携して新しい取りくみを進めることが大切である。</li> <li>・ 自治会、婦人会等の既存組織と様々な組織がともに活動できる環境をつくる必要がある。</li> <li>・ 自治会、街づくり協議会その他様々な団体があるが、地元の人しか入れないなど古い風習が足かせになっているように思う。もっと新しい視点で、新旧の住民が一体となった街づくりが必要である。</li> </ul>
<p>地域によって活動支援に格差がある</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何かにつけ中央(神戸や阪神地域など)に便利で、活動しやすいようになっている。</li> <li>・ 震災前か後かといわれるように、どうしても県の施策は県南部が中心のように思われる。</li> <li>・ 但馬地区まで中央の声が伝わってこないのが残念である。</li> <li>・ 地域ごとの課題について、その地域の実態を理解した上で、サポートが得られれば心強い。</li> </ul>
<p>ボランティアに依存しすぎてはいけない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人を育てる意味もあるのかもしれないが、すべてのことについて当番制をとったりするなど、少しボランティアに頼りすぎではないかと思う。</li> <li>・ 住みよい地域づくりに地域団体を主体に据えることは良いことだが、行政サイドの退行が懸念される。行政としての責任と自覚をもって業務にあたってほしい。</li> </ul>
<p>地道に身近なことから取組む</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近所の身近なことから活動をしている。小さなことでも続けていくことが、大切と思い、「自分の手に合うことから」をモットーとして活動していきたい。</li> <li>・ 地味な活動を続けたいと思っている。確かに、派手な活動や目立つ</li> </ul>

	<p>事をすれば、県や市も注目し、マスコミにも取り上げられ、助成金も受けやすいかもしれないが、ボランティアの基本をはずさないで活動していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域づくり活動の輪は一足飛びには広がらない。拡大に向けて一歩一歩努力が必要である。</li> </ul>
継続することが大切	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いったん方針が決まれば息の長い取組みで最後まで続けることが大事だと思う。</li> <li>・ 地域づくりというのは誰かが仕掛けたらできるというものではなく、長い時間をかけてそこに住む住民が自分の町を愛し、住みやすい環境を作っていくことだと思う。</li> </ul>
市町合併の問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合併して範囲が広くなり、移動に時間がかかるなど、活動がしにくくなった。</li> <li>・ 合併が進む中、地域づくり活動が難しくなってきた。例えば、地域で集まる祭りがなくなり、楽しみが減った上に資金作りをしていたバザーができなくなった。</li> <li>・ 町が市へ移行したことで行政との関わりが薄くなった。</li> <li>・ 合併等でボランティアを取りまく環境がめまぐるしく変わっているように思う。今まで活動してきたが、やめるといったことをよく耳にする。合併によってグループがなくならないよう旧市町との格差をなくしてほしい。</li> </ul>
個人情報保護の問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者の方が安心して生活できるように声かけ等をしているが、個人情報の保護を重用視するあまり、一人暮らしの老人への対応がスムーズにできないのが残念である。</li> <li>・ 個人情報の保護を意識するあまり、活動に必要な地域住民の状況把握や情報の共有化がしにくくなっている。善意の活動に対して、情報開示の方法はないものか。</li> </ul>
<p>・ 県に求める必要な支援</p>	
活動に必要な情報の提供	<p>【情報提供の機会の拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県が地域づくり活動を支援してくれることは大変心強く思うが、ほとんどの県民はよく知らない。もう少し簡単でも良いので、度々アピールするようにしてほしい。</li> <li>・ ボランティア団体等に所属していないと、地域づくり活動というののはわかりにくいものだと思う。もっと活動していない県民にアピールしてほしい。</li> <li>・ ボランティア・NPOの各種集会等でパンフレットを渡すだけでなく、気楽に相談に応じてもらえるようなコーナーを設けてほしい。</li> <li>・ 支援情報をいつでも見ることができる施設（ブース・設備）を設けてほしい。</li> </ul>

	<p><b>【多様な広報メディアの活用】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インターネットを使用できる環境にない者にも支援情報がわかるような工夫をしてほしい。</li> <li>・ ホームページで情報を流すだけでなく、全ての人が見れる方法を考えてほしい。</li> <li>・ 県民だより・公民館の掲示・ウイックネット等、幅広く支援情報を伝え、知らせてほしい。</li> <li>・ 企業や事業所等へのパンフレット・チラシなどの配布や、各市町のCATV などでの紹介が必要である。</li> </ul>
	<p><b>【支援情報の一体的な提供（情報のパッケージ化）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県の支援情報がバラバラに出されていてわかりにくい。できるだけ一覧表のような形で提供してほしい。また、支援情報を活用するためのノウハウを提供してほしい。</li> <li>・ 県の支援情報や各種イベント情報を集約し、ホームページで提供するなど、情報が一度に分かるように工夫してほしい。</li> <li>・ ある施策が利用できるのかどうかわかりにくいので、団体ごとに利用可能な施策のみをピックアップし、メールで知らせてほしい。</li> <li>・ 県のみならず国、市町村、企業等の支援情報をまとめた情報がほしい。</li> <li>・ 民間も含めた支援情報の一元的集約と発信が必要である。</li> </ul>
	<p><b>【わかりやすい資料づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章は誰がみても判読しやすいものにしてほしい。</li> <li>・ 役所の言葉は、言葉が重すぎて、何が言いたいのか、どう利用すればいいのかがわからない。もっと誰にでもわかるように書いてほしい。</li> <li>・ 老年層にもわかりやすい文言で書いてほしい。カタカナや横文字は極力さけてほしい。</li> </ul>
	<p><b>【早めの情報提供】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援情報等が早めにわかると助かる。</li> <li>・ 活動に必要な情報を早く入手したい。</li> <li>・ 情報の伝わりが遅く、知った時は、すでに締め切り間近であることがある。</li> <li>・ 会議やイベント等の日程をもう少し早く知らせてほしい。</li> </ul>

	<p><b>【情報発信による活動支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域づくり活動の参考となる各種の活動事例をできるだけ多く提供してほしい。また、活動事例の発表会を開催してほしい。</li> <li>・ 近隣地区における活動の成功例等の情報がほしい。</li> <li>・ 県内で同じ様な活動をしているグループをカテゴリー別に集約して情報提供してほしい。</li> <li>・ 誰が、どこで、何を、どのように活動しているのか、一目でわかるようなものを作ってほしい。</li> <li>・ 地域における活動内容をまとめたリーフレットのようなものがあれば、気軽に利用できて良いと思う。</li> <li>・ 子育てに関する活動をしているが、まだまだ自分達の活動に対する関心が低いようなので、もっと積極的に活動の実態をPRしていきたい。</li> <li>・ 県には、新聞社や広告関係者に地域づくり活動を取り上げてもらえるようにサポートしてほしい。</li> </ul> <p><b>【市町とのタイアップによる情報提供】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「県の支援」紹介コーナーを市町の公民館等に設けてほしい。</li> <li>・ 郡部にいる者は地元の広報は詳しく読む傾向にあるので、県からの情報提供は、市町の広報にも載せてほしい。</li> <li>・ 県民局より各町のまちづくり支援課にPR情報を流し、各自治会等に徹底すると良い。</li> </ul>
<p>相談機能・窓口の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気軽に相談に行ける窓口が身近にあれば良い。</li> <li>・ 縦割りではなく、様々な問題に対応できる能力のある人を窓口に配置し、適宜に割り振ってくれたら、何事も早く対応でき、問題も早く解決するのではないか。</li> </ul>
<p>活動に必要な知識等の習得</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援施策の情報提供や知識習得の機会を設けてほしい。</li> <li>・ 地域のリーダー育成についてはある程度の成果をあげていると思う。しかし、リーダーが地域に戻った時に、住民の意識を活動に向けるのに悩むことが多いので、一般住民の意識向上に関わる支援等が必要である。</li> <li>・ 行政の職員が地域の役員会等に出向いて指導してほしい。</li> <li>・ 人材育成のための研修会を実施してほしい。</li> </ul>
<p>きっかけづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体的な活動内容の体験ができる機会を作ってほしい。</li> <li>・ 特別な活動としてではなく、日常生活の中で、普通に活動できる環境づくりの工夫が必要である。</li> <li>・ まちづくりに対する思いは持ちながら、活動の機会を失っている人が多いので、そうした人が気軽に参加できる仕組みをつくってほしい。</li> </ul>
<p>リーダー、仲間の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まちづくりに熱心なリーダーに対する支援・協力が必要だと思う。</li> <li>・ 地域でリーダーシップをとる役員は、短期間の輪番制をとっている</li> </ul>

	<p>場合が多く、地域の課題がようやく把握できた時期に次の役員と交代というパターンを繰り返している。地域のために役立つという前向きな人材を、地域のリーダーに推薦し、支援する仕組みが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域づくり活動には熱心なリーダーが必要であり、その有無により、その地域の環境は左右されると思う。住民は地域をよくすることに異論はないが、自分がリーダーになることには二の足を踏む。</li> <li>・ 地域づくり活動には人材が不可欠である。人材養成と人材バンクを両輪としたシステムがあればいい。</li> </ul>
活動拠点の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動場所の確保に苦慮している。無料で使えるフリースペース等の増加を望む。</li> <li>・ 但馬地域では特に冬季の交通事情が悪く、活動拠点までが遠くて不便である。もっと身近に活動拠点があれば活発に活動できると思う。</li> <li>・ 交通の便の良い場所に使いやすい施設ができればもっと活動が広がると思う。</li> <li>・ 「うれしの生活プラザ」のような施設が近くにあれば、夜間の会議等に使い、便利である。</li> <li>・ 各市町にボランタリープラザのような施設を設置してほしい。特に小さな団体でも使える場所が身近にあればいい。</li> <li>・ 常駐のアドバイザーのいる活動拠点があるといい。空き地や空き店舗をNPOの活動拠点として利用できるようなシステムを作してほしい。</li> <li>・ 当町には活動拠点が無い。家賃の半額でも助成があれば空家等を借用して拠点づくりができる。</li> </ul>
活動資金の確保	<p><b>【資金提供の充実】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティア活動をするにはやはり資金が必要である。特に地域によっては会費を高めにするると全く人が集まらないので、結局持ち出しになり、活動の幅が広がられない。</li> <li>・ 活動するためにはやはり資金が必要である。資金提供の充実を図ってほしい。</li> <li>・ 助成金は、原則として必要経費の半額になっているが、残りの半分を工面するのが大変である。支給率のアップをしてほしい。</li> <li>・ 会員の減少によって補助金が削減されるが、会員が少なくなっても、これまでと同じような仕事をこなし、必死に頑張っている。頑張っている人を応援するようなサポートがほしい。</li> </ul> <p><b>【助成対象事業の拡大】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 助成対象事業が広がり、大変活用しやすくなっている。今後も継続し続けてほしい。</li> <li>・ 今年から活動資金の対象事業が広がったのはとてもいいことだと</li> </ul>

	<p>思うが、それにより資金の枠が変動すると聞いた。今後は申請数によって資金の増減幅があまり変動しないようにしてほしい</p>
	<p><b>【助成金の使途の拡大】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 助成金の使途が限られ、使い勝手が悪い。</li> <li>・ 災害等のボランティアに出ても、交通費等について一切補助がないのは本当に苦しい。</li> <li>・ 職員が同じ事業に参加すれば仕事として扱われるのに、ボランティアは交通費も助成されない。</li> <li>・ どんな活動にも最低限必要な交通費等の資金援助がほしい。</li> <li>・ 人材を雇用できるような活動資金があればいいと思う。</li> <li>・ 活動を長続きさせるために、ボランティア保険の援助等も考えてほしい</li> <li>・ 食料費の見直しを考えてほしい。現場作業の時に、ジュース、弁当などは必需品である。</li> </ul>
	<p><b>【助成要件等の緩和】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 助成金を支給する要件を緩和してほしい。現状では大規模な組織でないと、要件を満たすことが困難である。</li> <li>・ 助成金の申請基準が厳しいと思う。</li> <li>・ 活動に必要な機材の修理費など、高額になることがあるが、次年度に積み立てることが、認められていない。助成金の使い方にもっと自由な裁量を認めた方が良い。</li> <li>・ 財産的な支援を要望。経費の年次繰り越し等考慮願いたい。</li> <li>・ 事業ごとの補助でなく毎年度の活動報告、財務諸表の評価によって、一括補助金の交付をお願いしたい。</li> </ul>
	<p><b>【助成手続の簡素化】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域団体活動パワーアップ事業による助成のおかげで団体活動が活性化し、大変感謝している。しかし、申請書類が面倒なこともあり、広く様々な活動団体が助成を受けるまでには至っていないように思う。</li> <li>・ パワーアップ事業にエントリーし資金援助を受けたが、申請から報告会まで何度も足を運ばなくてはならず、担当者の負担が大きい。</li> <li>・ 活動資金の申請・報告の書類が複雑で分かりにくいので、簡素化してほしい。</li> <li>・ 申請書類に具体的な活動例や記入例などを添付し、書類を作成しやすくしてほしい。</li> <li>・ 申請書類の簡素化と併せて、未承認になった案件に対する、納得のいくフィードバックが必要だと思う。</li> <li>・ 活動費等助成金の申し込み時期を年2～3回にし、申し込みしやすくしてほしい。</li> <li>・ 申込期間が短すぎて、時間に余裕がない。</li> </ul>

	<p><b>【助成金の早めの支給】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次年度の事業に対する助成金の決定を早めにして欲しい。4月、5月に計画している事業は、全く助成金が得られない。意欲はあっても、助成が受けられるかどうか不安なまま計画を進めていくのは、とても勇気がいる。</li> <li>・ 活動計画を立て、実施の段階で資金が不足するから、助成金を申請しているにもかかわらず、実施後、活動報告を提出してからしか助成金が支給されないため、やり繰りが大変である。</li> <li>・ 新規事業で組織を立ち上げて取り組む場合、資金運用で代表者が立て替えたり、代表者名義で金を借りたり、リスクが大きすぎる。せめて当初は前払いを認めていただければ事業がやりやすい。</li> <li>・ 助成金の前払い制度はあるが、ほとんど後払いとなっている。</li> </ul> <p><b>【資金調達のノウハウ等の提供】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どの団体でも活動資金の確保が大きな課題と考えるが、自前での資金確保に関する勉強会等を開催してほしい。</li> <li>・ ある程度の資金が捻出できるようにするため、コミュニティビジネスの指導をしていただけたらと思う。</li> <li>・ 無償ボランティアでは長続きしがたいので、多少の収益事業を認めてほしい。</li> </ul>
<p>連携・交流の機会の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域づくり活動を行っているグループの横のつながりが必要である。行政でそのつなぎ役を考えていただけたらありがたい。</li> <li>・ ジャンルを超えたグループや人との交流の機会を作してほしい。</li> <li>・ 類似団体のネットワーク化を図ることが必要である。</li> <li>・ 情報交換や交流のできる分野別のネットワークがほしい。</li> <li>・ 団体・グループの紹介をするだけでなく、能力のあるグループ・特色のある団体をいくつかつなぎ合わせ、それぞれの特性を發揮できる形のイベントや事業を考えてはどうか。</li> <li>・ 地域の見識者と地縁団体をつなぐ方法を考えてほしい。</li> <li>・ 都市と農村の交流を具体的に展開できる仲介の労をとってほしい。</li> <li>・ 県で魅力のあるテーマ設定をしてくれると、団体同士が連携しやすいと思う。</li> <li>・ 団体として独自の活動を長く続けているが、そこから発展して他の団体等との関わりまではいっていない。活動を広げたいという気持ちと、今のままで手一杯という状況の狭間にある。</li> </ul>

<p>団体の自主性を尊重した支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域づくり活動をしている団体は、それだけで主体性を持った団体である。これら団体を束ね、指示・命令すると反発が起こる。自由に活動させ、必要な時だけに支援をする。利用しようとするとうまくいかない場合が多い。</li> <li>・ 地域づくり活動をしている団体の自主性・主体性を尊重してほしい。</li> <li>・ 一生懸命取り組んでいるわりには達成感がないと思うことが多い。県からの施策や事業内容は住民側にはさせられている感じがする。</li> <li>・ 地域づくりは住民の自由な発想に基づいて行なわれるもの。行政が支援できる範囲を明確にしておくことが必要だと思う。</li> <li>・ 地道に活動しているので、あまり枠にはまりたくない。</li> </ul>
<p>地道な活動に対する支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動を始めたばかりの小さな団体にも目を向け、団体の目的を理解した上で広報活動などに力を貸してほしい。</li> <li>・ 誰の目にも留まる華やかな活動だけでなく、地道な活動をしている団体・グループを大切にしてほしい。</li> <li>・ 地域づくり活動の実践や助成の報告を見ると、多人数広域主義のように思える。小さな活動の中にもキラリと光るものがあると思うので、その辺りにもスポットを当てて、すくいあげる施策を大切にしてほしい。</li> </ul>
<p>継続した支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政の単年度会計を超えた支援システムを考えてほしい。単年度では活動計画が途切れがちで、成果を上げにくい。</li> <li>・ 各種の地域づくり活動は、継続されてこそ意味がある。一度や一年限りの支援施策ではなく、継続した支援が必要と考える。</li> <li>・ 一年ごとの補助支援は、一発花火の活動に陥る恐れがある。</li> <li>・ 新しい事業への支援が目立つ。長く続けている事に意義があるのではないか。</li> <li>・ 小さなグループほど継続していけるように助成を続けて安心して活動ができるようにしてほしい。</li> <li>・ 調査や活動の結果が活かされたのかが明確でないうちに事業の方針や方向性が変わってしまう。</li> </ul>
<p>2007 年問題への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少子高齢化・過疎化が進む中、会員増が見込めない厳しい状況である。今後、2007 年問題を視野に入れて、地域づくり活動に対する県民の理解と参加が得られるよう、県として側面から広く周知・浸透を図ってほしい。</li> <li>・ 今後、退職者が増加してくる傾向にあり、この人的資源を地域活動に活用する姿勢が行政にほしい。</li> </ul>

## 県行政への参画・協働に関する意識と実態

. 参画に関する意識	
意見をよく聞いてほしい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地道に活動をしている団体の意見を聞く機会をつくり、意見を参考にして支援施策を作ることが必要である。</li> <li>・ 支援施策を決める際に、担当者との円卓会議や各団体に対するヒアリングなど、団体のニーズが届くような仕組みが必要だと思う</li> <li>・ 地域住民の意見を集約することにより、住民参加型の地域づくりに積極的に取り組んでほしい。</li> <li>・ やるべき方向を前もって決めておきながら、参考的に参加者の意見を聞くパターンが目立つように思う。</li> <li>・ 何事も形式的で、意見発表の時もほとんど聞いてもらう時間がなかった。</li> <li>・ 声なき声をもっと聞くことが、地域の活性化につながると思う。</li> <li>・ 行政も市民に対し言うべきことははっきり言って、相互に理解を図りながらすすめるべきと思う。</li> </ul>
意見に対しきちんと対応してほしい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意見は出したが取り合ってもらえなかった。</li> <li>・ 意見に対し真摯に伝えてもらえないことが多い。</li> <li>・ 個人のどんな小さな意見であっても真摯な態度で対応してほしい。</li> <li>・ 提案をしても決められた団体の意見しか取り上げてもらえない感がある。</li> <li>・ アンケートや提案の募集はするが、その分析結果等についてフィードバックのない場合が多く、どう生かされているのかわからない。</li> </ul>
. 協働に関する意識	
縦割り行政の弊害を改めてほしい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 縦割り行政により、地域づくりがバラバラに進められ、地域づくりをしている県民や団体もそれによって分断されている。</li> <li>・ 縦割りの組織を改善し、相互に情報を共有して迅速に対応してほしい。</li> </ul>
一緒に活動してほしい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ もっと県も一体となって取り組む姿勢がほしい。</li> <li>・ 県は活動の支援はしてくれるが、ともに活動するという姿勢が見られない。</li> <li>・ 現場で一緒に活動する機会を持ってほしい。</li> <li>・ 地域住民の立場に立ち、積極的行動実践を行なうこと。</li> <li>・ 地域住民の立場に立って課題の解決に協力してほしい。</li> <li>・ 県・市からの支援を受け、「町内を明るく美しく」を合い言葉に花いっぱい運動を展開し、少しは成果がでてきた。</li> </ul>

<p>・ 県行政が身近になるための取組み</p>	
<p>一緒に活動する機会を増やす</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動する中で、市との関わり合いは多いが、県との関わりはあまりない。身近な存在として現場にもっと出て来てほしい。</li> <li>・ できるだけ多くの方が、県とともに取組む活動が増えれば、県政への理解や親近感は深まっていくと思う。関わりがなければ関心を持つことも連携を深めることもできない。</li> <li>・ 根気よく住民に接する機会を多く持つことが必要である。</li> <li>・ 形だけでない、中身のある真剣なディスカッションが必要である。</li> </ul>
<p>気軽に相談・意見交換できる場の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気軽に相談できる窓口があればと思う。</li> <li>・ 身近な相談相手になってほしいが、なかなか近寄りがたい。</li> <li>・ 誰でも参加し、気軽に意見交換のできる機会が、年に一度でもあればと思う。</li> </ul>
<p>・ 県職員に望むこと</p>	
<p>職員の意識改革が必要</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティアに対する県担当者の理解度が低い。</li> <li>・ 参画と協働の理念が県職員に充分浸透していない。県職員の意識改革が必要である。</li> <li>・ お役所的、事務的な対応ではなく、県民の目線に立って対応してほしい。</li> <li>・ 担当課に在籍する間だけではなく、異動しても地域づくり活動に対する意識をもっていてほしい。</li> <li>・ 各職員の活動に対する気概が感じられない。職務とあわせて各人の意欲や情熱を高めることも大切ではないか。</li> <li>・ 上位下達ではなく、活動に取組む人たちの側に立って考えてほしい</li> <li>・ 熱意をもち活動を続けている地域住民との触れ合いの場を持ち、活動を盛り上げる意識を持てる職員であってほしい。</li> <li>・ 関わりのある県職員個人は好感が持てるが、市民を応援しようとしても組織や・ルールの制限を受け、自由さがない。県組織の改革も必要と思う。</li> </ul>
<p>親切・丁寧に対応してほしい</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 窓口の対応を親切にしてほしい。県職員はわかっているが一般県民は知らないことが多いので、わかりやすく丁寧に説明してほしい。</li> <li>・ 県職員の対応が不親切だと感じることが多い。</li> <li>・ 丁寧に接してもらっている。今後も活動している者の立場に立った対応をしてほしい。</li> <li>・ ほとんどの県職員は親切にしてくれるが、中には不親切な方もいる。</li> <li>・ 口先で処理せず、本音で県民に対応してほしい。</li> <li>・ 要望等に対して迅速で誠意ある対応を望む。</li> </ul>

<p>県民の目線で対応してほしい</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門用語はなるべく避けて、分かりやすい言葉で説明してほしい。</li> <li>・ 県民の目線に合わせたわかりやすい資料の作成や好感の持てる対応を望む。</li> <li>・ 県職員としての自覚は必要であるが、あまり他人行儀で接されると近づきにくい。もっと地域の人たちに馴染んでほしい。</li> <li>・ 県職員には、地域づくり活動団体の悩みや危機感を共有し、一緒に考えてくれると、一歩踏み込んだ連携ができると思う。</li> <li>・ 職員自らも県民であることを自覚し、県民の立場に立って、真剣に話し合う気持ちを持つことが大切である。</li> </ul>
<p>公平に対応してほしい</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定のNPOだけに接しすぎていると感じることがある。県内には数多くのNPOがあるので、公平に接してほしい。</li> <li>・ 団体に対する県職員の対応が雑である。大きな団体や有名な団体に対する対応と、小さな団体や活動の浅い団体に対する対応を平等にしてほしい。</li> <li>・ 以前は、県民局の推進委員がよくきたが、最近はあまり資料も持って来ないで、自分の知り合いを大事にしているように思う。</li> <li>・ 特定の間接支援組織だけでなく、幅広く小さな中間支援組織にも経費等の援助をしてもらえよう検討してほしい。</li> </ul>
<p>現場を知ってほしい</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域づくり活動の中に県職員の姿を見た事がない。もっと現場の実態を見て助言してほしい。</li> <li>・ 活動の現場へ突然職員が来たときは、大変驚いたが、ありがたかった。</li> <li>・ 机上だけの考えではなく、ともに行動し、実際の活動を自分の目で見る事が大切ではないか。</li> <li>・ 現場へ出向いて活動に参加してほしい。堅苦しい規則を述べるよりも、活動に共感し、応援する姿勢でアドバイスしてほしい。</li> </ul>
<p>ともに取り組んでほしい</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループのリーダーだけでなく、メンバー全体と交流し、活動内容を理解してほしい。</li> <li>・ 地域のイベントに参加するなど、活動を一緒に行なう機会を増やすことが必要である。</li> <li>・ 県職員の意識の中に「ともにやろう」という考えが見受けられない。指導や監督するという姿勢が強く見られる。</li> <li>・ 書面だけでなく、直接話し合える機会を増やすことが大切である。</li> <li>・ 県職員にも楽しみながらともに取り組んでほしい。</li> <li>・ 県民局の職員は、住民と接する機会が多く、身近に感じるが、もっと地域に出向いて、ともに地域づくり活動ができるとよい。</li> <li>・ 県職員と接する機会がないので、まず、接する機会を作って欲しい。</li> </ul>

地域活動に参加してほしい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域活動に率先して参加してほしい。地域コミュニティのリーダー役として活躍してほしい。</li> <li>・ 時には県職員と一緒に汗を流すことを楽しみたい。</li> <li>・ 休日は、県職員も地域の一員として、手当が支給されなくても地域活動に積極的に参加すべきである。それだからこそ実態が理解できる。</li> </ul>
的確なアドバイスをしてほしい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これから活動しようとする団体への助言や役に立つ情報、まずかった事例などを教えてほしい。</li> <li>・ 団体の一員であるかのような目線で、的確なアドバイスをしてくれることを期待する。</li> <li>・ これまで、様々な要望をしてきたが、的確な返事をもらえるので、安心して事業に取り組める。</li> <li>・ 他県の情報や同様の悩みを抱えるグループの事例・解決方法などを、具体的に教えてほしい。</li> <li>・ 規定どおりの説明だけでなく、いろいろなケースに親身になって相談にのってほしい。</li> </ul>
職員のスキルアップが必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門知識を備えた職員を養成し、住民の地道な活動をサポートしてほしい。</li> <li>・ 県職員の知識と経験が不足している。サポートする気持ちと能力が十分にあるとは思えない場面にしばしば出くわす。</li> </ul>
職員の異動について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県職員とようやく気持ちが通じ合えた時期に異動されてしまうので、職員の異動はもう少し少ない方がありがたい。</li> <li>・ 配置換え・退職などで職員が変わると、また一から人間関係を作りあげていかなければならないので、困ることがある。</li> <li>・ 職員の異動のたびに考え方が変わる。</li> <li>・ 人事異動があることは仕方がないが、一から説明しなくても済むように、引き継ぎをもっとしっかりしてもらえたらと思う。</li> <li>・ 担当職員の異動はやむを得ないが、住民との人的関係が特に求められる部署の任期は長い方が良い。</li> </ul>
. 市町との連携	
緊密な連携・協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市町との連携を密にしてほしい。</li> <li>・ 県が支援する活動と市が支援する活動が別々に存在し、二重になっている。県と市が一体となった地域づくり活動が必要である。</li> <li>・ 市町の関連部署との情報共有と協働を進めてほしい。</li> </ul>
市町の実情に応じた施策の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内の市町村に対し、一律に施策を実施するのではなく、それぞれの市町村において何が必要であるかを見極め、施策を実施してほしい。</li> </ul>
今後の市町と県のあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県と市町とが同じような事業をしている場合がある。地域に密着した事業は市町に任せるべきである。</li> <li>・ 地域づくり活動は、身近な市町村が積極的に取り組み、県はその活動</li> </ul>

	<p>を支援することが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 県下の市町の力量にはバラつきがあると思うが、可能な限り市町や住民に権限を持たせてほしい。県には、広域課題に対する対応や他地域との交流の促進など、その総合力が発揮できる分野で頑張してほしい。</li></ul>
--	--